

自立活動 学習指導案

1 単元名

「2人で協力してスライムを作ろう」

2 児童の実態

	単元の学習に関する実態	付けたい力
A児	3 人間関係の形成 (2) 他者の意図や感情の理解 (3) 自己の理解と行動の調整に関すること 1番になりたがり、負けず嫌いである。思いついたまま話したり、大声で叫んだりする。一方的に話すことが多い。時には、友だちに手がでることもある。 - WISCⅢの結果では、PIQとVIQに有意な差はないが、知的好奇心は高く、1カ所に注意を向けることや物語全体を見通して、考えることには苦手さがある。目先の興味のあることだけにとらわれて、全体の見通しを持ちにくいことが伺えた。 ○A児の特性の要因： 行動や欲求をコントロールすることが難しい。自分の言動が他の人にどのように影響をあたえるのかふり返るのが難しい。	3- (2) 他者の意図や感情の理解 (3) 自己の理解と行動の調整に関すること - 相手の気持ちを理解し、場に応じた対応ができる。 - ペア学習を通して、ペアの友だちの思いを汲んで思いやりたり、時には譲ったりすることができる。 【手だて】 - 前時までに行った学習を掲示し、自分の課題を常に意識できるようにする。 - 相手の様子を見る必然性のある活動を設定する。 - 相手のことを考えた発言を即時評価し、プラス行動を強化する。
B児	2 心理的な安定 (2) 状況の理解と変化への対応に関すること 6 コミュニケーション (2) 言語の受容と表出に関すること 集団の中で自分の思いを話すことが少ない。1学期の個別学習の中でもなかなか話すことができなかった。WISCⅢの結果では、PIQとVIQに有意な差はないが、迷路が低いことから活動や学習の先の見通しをもって思考することがうまくできないことが伺えた。 ○B児の特性の要因： 慣れない場面や慣れない相手に対しては心理的な圧迫を感じ、話すことに抵抗がある。 様々な場面や状況においてどのように行動したらよいか見通しがもてず、活動が停滞する。	2- (2) 状況の理解と変化への対応に関すること 6- (2) 言語の受容と表出に関すること - 自分の思いや考えをことばで表現できる。 - ペア学習を通して、ペアの相手と活動することの楽しさを味わうとともに、ペアの友だちに自分の思いや考えをことばで表現できる。 【手だて】 - 少し待って自分で考える時間を保証した後言葉のヒントを出す。 - ホワイトボードなど書いて表現することも認める。

3 単元について

A児とB児は3年生である。自己コントロールの弱さや、慣れない場面への抵抗などから適切な社会行動がとりにくく、自己肯定感が下がる傾向にある。そこで通級指導教室において1学期は下記のように個別指導を行ってきた。

A児は、決めた課題に集中して取り組むこと、相手の気持ちを理解し、場に応じた対応ができることを願って支援してきた。

カラーボール並べによく取り組み、「今日は○問やります」、「タイムを計ってやります」などと自分で目標を決めて取り組むことができ、手先の巧緻性、根気よく作業する力を養うことができた。

ソーシャルスキルワークでは、例えば、「友達が失敗して自分のチームが負けた時」というワークで、「責めたらかわいそう」などと相手の身になって考えた発言をすることができたが、実際の場面では、人の気持ちを考えた行動をとることが難しい。実際に友だちと行動を共にしながら、相手を意識した行動がとれるように支援をする必要がある。

B児は、得意なことを見つけ、その活動に自信をもって取り組むことができること、ゲームなどを通して自分の思いをことばで伝えることができることを願って支援してきた。

図形の認知力を培うタングラム（図形のパズル）では、はじめは戸惑い、見本通りに作ることができなかった。形の向きに注目するように助言することで見通しをもち、それからスムーズに形を作ることができるようになり、自信につながることができた。また、「折り紙の切り絵がしたい」と自分のことばで担当者に伝え、自分で創意工夫して切り絵の作品を作り上げるなど少しずつ話す姿が増えたが、集団の場では難しい。自分の思いをことばで伝えられるように、小さな集団の中で話すことから始めていきたいと考えた。

そこで、グループ指導においては、2学期より、協力して一つの課題に取り組みながら、A児は、相手を意識した行動や発言ができることを願っている。B児は、A児に心を許して行動したり発言したりできることを願い、協力課題を設定するようにした。

そして、この協力課題を行う基礎トレーニングとして、「社会性と情動の学習（SEL）」を位置づけた。SELとは、子どもや大人が、社会性と情動の能力を獲得するために必要なスキル、態度、価値観を発達させる過程であり、SELを行うことで自己や他者の気持ちや価値に気がつき、他者への理解や共感ができる力を養い、協力課題に取り組ませたい。

尚、SELで行った学習を黒板に掲示して既習内容の視覚化を図り、学びが連続するように教室の構造化を図った。

協力課題としては、「スライムづくり」を行うことにした。その理由は以下のとおりである。

- ・2人は物を作ることが好きである。
- ・独特の触感、作る工程での素材の変化を楽しむことができるので遊児童の興味関心が高い。
- ・教え合いながら分量を量ったり、役割分担して混ぜたりする事ができる。

スライム作りの中で声をかけあったり、互いにできたことを褒め合ったりすることを通して、一人一人の願う姿の具現を図りたいと考えている。

4 単元指導計画

（1）目標

- ・A児：自己主張するだけでなく、Bを意識した行動をとったり、Bにことばがけをしたりすることができる。Bと一緒にスライムをつくる楽しさを味わうことができる。
- ・B児：Aに対し自分からどんなことがしたいかをことばで表現したり、身体表現したりできる。Aと一緒にスライムを作る楽しさを味わうことができる。

5 指導計画

	主な学習活動	個別の目標	評価規準
1	「いろんな気持ち」 ・絵を見て、転んだ子がどんな気持ちになるのか考える。 ・気持ちを知るヒントがわかる。	A：転んだ子の気持ちをことばで話すことができる。 B：Aの発言に相槌を打つことができる。顔の表情の絵を選ぶことができる。	A：転んで恥ずかしいと思っている。ヒントがわかる。 B：恥ずかしいそうにしている顔の絵を選ぶ。ヒントがわかる。
2	「自分はどんな気持ち」 ・ゲームをしながら、感情語に該当する自分の日常場面を説明する。 ・感情の表現方法を考え、適切な方法と不適切な方法に分類する。「気持ちの伝え方ポイント」を知る。	A：自分の行動をふり返り、不適切な行動の有無に気づき、自分の気持ちを言葉で表すことができる。 B：自分の行動をふり返り、不適切な行動の有無に気づき、自分の気持ちを言葉で表そうとする意欲を持つことができる。	A：「怒ったときに物に当たったことがある」と振り返り、言葉での伝え方を考え、話す。 B：良い、悪いを○×で表現したり、言葉で少しでも話そうとする姿が見られる。
3	「話の聞き方」 ・悪い聞き方と反応の少ない聞き方を教師が例示する。 ・気持ちのよい聞き方はどのような聞き方か考える。	A：自分ばかりでなく、相手の話を聞く姿勢を身につけることができる。 B：うなずくなど動作で相手の話を聞いていることを表すことができることを知る。	A：「ちゃんと聞かなかったな」などと反省し、気持ちの良い聞き方を知る。 B：相手に体を向け、目を見てうなずくこともよい聞き方だと知る。
4	「声のかけ方」 ・相手をほめたり、認めたりすることの大切さを知り、友だちに声をかける時のポイントを知る。	A：相手をほめたり、認めたりすることができる。 B：相手に声をかけようとする意欲を持つことができる。	A：「すごいね」などと相手に声をかける。 B：相手をほめる時の伝え方（言葉、表情）を知る。
5	「2人で協力してスライムを作ろう」 ・互いに協力して、スライムづくりを楽しむ。	A：Bの気持ちを考えながら役割分担し、Bと協力してスライムを作り、協力して作り上げる楽しさを味わうことができる。 B：自分の思いをAに伝えながら、Aと協力してスライムを作り、協力して作り上げる楽しさを味わうことができる。	A：「B君は何がしたい？」と聞いたり、「こうするといいいよ」とアドバイスしたり、「できたね」と声をかけてBとスライムができたことを喜び合う。 B：やりたいことを動作で示したり、「僕は〇〇をやるよ」と言葉で表現したりする。できた時、ガッツポーズをするなど共にできた喜びを表現する。

5 研究について

<研究テーマ>

お互いに力を合わせ、助け合いながら学習を進める自立活動のあり方

<研究内容>

- ・基礎トレーニングとしてのSELの取り入れ方
- ・SELを活かした協力課題のあり方

本校は、本年度「ピア・サポート・スクール推進事業」の指定を受け、子どもたちに豊かな人間性を育むことで、いじめや不登校の未然防止を図ることを目指している。その為に、具体的な方策として、

SELをベースとしながらピア・サポート活動を取り入れている。

SEL（社会性と情動の学習）とは、「子どもや大人が社会性と情動の能力を獲得するために必要なスキル、態度、価値観を発達させる過程」と定義され、自己の気づき、自己のコントロール、他者への気づき、責任ある意思決定、対人関係の5つを核とする能力を養うことを目的としている。これらは、自立活動の「心理的安定」「人間関係の形成」「環境の把握」「コミュニケーション」の目標を呼応するものであり、SELを効果的に取り入れることが児童の力を伸ばすことにつながると考えた。

SELは、A（基本的生活習慣）、B（自己・他者への気づき、聞く）、C（伝える）、D（関係作り）、E（ストレスマネジメント）、F（問題防止）、G（環境変化への対処）、H（ボランティア）の8つの社会的能力を育てるために学習単元が構成されている。その中で前述した、「自己コントロールの弱さから適切な社会行動がとりにくく、そのため、一方的に話し、自己肯定感が下がる傾向にある」という児童の実態から、自分や他者の気持ちに気づき、他者とうまくかかわるために、B（自己・他者への気づき、聞く）を取り入れた。

まず、自分の気持ちに気づくために「いろんな気持ち」「自分はどんな気持ち」を行い、他者の気持ちに気づき、うまくかかわるために「話の聞き方」「声のかけ方」を行うことにした。

そして、そのリハーサル場として、学んだことを活かし、声をかけ合いながら協力する姿が見られることを願って協力課題の場「スライム作り」を設定した。

（参考文献 「社会性と情動の学習（SEL－8S）の進め方 小泉令三 山田洋平）

6 本時の目標 （1）目標 （2）評価規準

- ・ A児（1） Bと協力してスライムを作り、協力して作り上げる楽しさを味わうことができる。
（2） Bの様子を見て「B君は何がしたい？」と聞いたり、「こうするといいよ」とアドバイスしたり、「できたね」と声をかけてBとスライムができたことを喜び合う。
- ・ B児（1） Aと協力してスライムを作り、協力して作り上げる楽しさを味わうことができる。
（2） やりたいことを動作で示したり、「僕は〇〇をやるよ」と言葉で表現したりする。できた時、ガッツポーズをするなど共にできた喜びを表現する。

7 本時の展開

	主な学習活動	A児	B児	配慮事項
		○予想される反応 *支援	（手だて）★：評価	
導入	1 今日の予定を立てる。	○積極的にしりとりのことばを話す。Bの番なのに話そうとする。	○口をつぐみ、話そうとしない。	・気持ちに共感し、安心感を与える。 ・ホワイトボードを用意する。 ・聞き方のポスターを掲示する。 ・しりとりではタイマーを使用し、時間的な負荷を与える。
	2 しりとりをする。	*自分で考えて言えたことをほめつつ、友達と一緒にやっていることを意識させるために「聞き方」の学習を想起させる。（順番を守る） ★Bが話すのを待つ姿が見られたか。	*このホワイトボードに書いてもいいよと渡す。 *すぐにヒントを出すのではなく、3秒ほどまってから出すようにする。 ★言葉やホワイトボードなどの手段でしり通りの言葉を表したか。	

展 開	3 スライムを作る。	めあて ・ 2人で協力し合ってスライムを作ろう A：Bにアドバイスし B：自分のやりたいことスライムを作ろう とを話そう		
	① 自分のめあてを確認する。			
	② 説明書を読む。	○一人で読もうとして、「僕が先に作る」と言ったり、役割を一方的に決めたりする。 *「いろいろな気持ち」「声のかけ方」を想起させ、Bの気持ちを考えさせる。Bに声をかけ、Bの気持ちを聞いて分担しようとしたら価値づける。 ★Bの気持ちを確かめながら役割分担をしたか。	○説明書を見ようとする。順番や役割分担をA任せにしてしまう。 *「声のかけ方」を想起させ、Aに任せないで自分でも読もうとしたり、自分の意見を言おうとしたりしたら、その姿を価値づける。 ★言葉か指差しで自分のやりたい役割を示すことができたか。	・文だけでわかりにくいようであれば図入り説明書を渡す。 ・前時までに学習した「いろいろな気持ち」「声のかけ方」のポスターを掲示する。
	③ 作る順番を決める			
	④ 役割分担をする。 ・ 計量カップ係 ・ 混ぜる係など			
	【ここがポイント①】（個々のねらいに即した必然性のある学習過程の工夫） ・ 役割分担をしてスライムを作ることにより、互いにかかわりをもったり、相手の様子を見て声をかけたり、自分の意思表示をしたりと、それぞれのねらいに迫る必然性のある学習活動を効果的に仕組む。			
	⑤ AのスライムをBと協力して作る。	○自分から進んで作るが、Bの役割までやろうとする。 *「いろいろな気持ち」「声のかけ方」を想起させ、Bの気持ちを考えさせる。Bが役割を果たすように声をかける姿が見られたら価値づける。 ★Bの気持ちを考え、Bにやってほしいことなどの声をかけることができたか。	○A任せになったり、Aの言うなりになったりする。 *「声のかけ方」を想起させ、自分から主張したり、進んで役割を果たそうとしたら価値づける。 ★自分から進んで役割を果たし、「コップを持つよ」などと言葉で言えたか。	・③で決めた役割に従ってスライムを作る。 ・糊や水などを計量しやすいように計量カップを用意する。

	⑥ BのスライムをAと協力して作る。	○Bに次々と指示をして、思ったようにできないといらいらする。 *「相手の気持ちに合わせる」を想起させ、Bのやることを待ったり、「こうしたら」と声をかけたりしたら価値づける。 ★Bの表情をみながら気持ちを考えて声をかけることができたか。	○自分から作ろうとするが、Aの指示が多くなり、Aに「待って」、「こうして」となかなか言えない。 *「待ってください」と言うといいよと助言したり、Bに代わって教師が代弁する。 ★Aに思いを伝えながら自分から積極的にスライムを作ることができたか。	・協力の具体的な姿、「かして」「どうぞ」などの言葉を価値づけ、Bのスライム作りにいかせるように紹介する。
	⑦ スライムで遊ぶ ・手にとって一人一人遊ぶ ・2人のスライムを混ぜて遊ぶ。	○感触を楽しむ。「こんな形ができたよ」などとBに話す。 *Bに話しかけた場面をとらえて声をかけたことを価値づける。 ★一人で遊ぶだけでなく、Bに声をかけながら遊ぶ姿が見られたか。	○感触遊びを楽しむ。Aの目の前でスライムを伸ばすなどの遊びもする。 *Aにかかわる場面をとらえてかかわりを価値づけ、意欲化をはかる。 ★一人で遊ぶだけでなく、Aとかかわろうとしたか。	・二人がかかわり始めたら、スライムを混ぜても良いことを助言する。
終末	4 ふりかえりをする	○「スライムができて楽しかった」などと言う *活動中にAがBにかけた言葉を話し、思い出させる。また、その言葉を教室でも仲間につけられるように励ます。 ★Bに作り方のアドバイスができたか。	○教師の問いかけにうなずくなどして気持ちを表現する。 *活動中にBがAに示した行動や発した言葉を話し、思い出させる。 ★Aに言葉などで働きかけができたか。	・自己評価を基盤とする。 ・ふり返ったことが自分の教室でいかせるように評価する。

【ここがポイント②】(活動→フィードバックによるスキルの定着)

- ・一つ一つの活動を短いスパンで行い、その都度評価、フィードバックを行うことにより、身に付けたスキルの定着を図る。
- ・1回目の活動よりも2回目は支援の割合を少なくし、自分で考え、判断して行動できるようにする。

8 環境設定図

黒板

【ポイント④】(環境設定)
使う道具がわかるように、のり、水、ほう砂水、絵の具、計量カップ、コップを置いておく。

【ポイント③】(環境設定)

- ・活動中に前時学んだことを活かすために「聞き方」「自分の気持ち」「声のかけ方」のポスターを掲示する。

A 児

B 児

【ここがポイント⑤】(環境設定)

- ・相手を意識できるようにそれぞれの机を対面にする。
- ・コップを小さくし、お互いが持った時に手が触れ合い、相手を意識したり、協力し合う必然性を持たせる。

スライムの作り方

- ・スライムは、制作過程が簡単でわかりやすいこと、触感の面白さ等から、様々な発達段階の子どもに適した素材であるといえます。
- ・子どもの実態や指導の目的に応じて「手順通りに一人で正しく作る」、「工程を分担して友達と協力しながら作る」など、様々な学習過程の工夫ができます。
- ・更に、「作り方を人に説明する」、「作ったもので一緒に遊ぶ」等、発展的な学習もできます。
- ・大切なことは、スライムづくりを通して子どものどんな力を育てたいのかを明確にすることです。

①	のりを30ml はかる	
②	コップに入れる	
③	水を30mlはかる	
④	コップに入れて まぜる	
⑤	絵の具を入れて まぜる	
⑥	ほう砂水(*)を 少しずついれる	

* ほう砂水の作り方

水100mlあたり、ほう砂10gを入れ、飽和水溶液を作る。ほう砂を多めに入れて、容器の底に沈殿する目安でもよい。

【視覚化】

- ・30mlを正しく計量できるよう、30mlの目盛にテープを貼り、わかりやすくする。
- ・目盛を見ることができるようになったら、自分で測れるように、目印のテープを外す。

【言語化】

- ・色の変化、触感の変化がある時に言語化してスライムの状況や自分の感想等を伝えることができるようにする。

スライムで遊ぼう

- スライムの触感を楽しむとともに、様々な形に変形させる、作ったものを交流する、作ったもので遊ぶなどの活動を通して子どもの空間認知・手指の巧緻性、目と手の協応動作、コミュニケーション能力などを高めることができます。
- 大切なことは、スライムで遊ぶことを通して子どものどんな力を育てたいのかを明確にすることです。

①	のばしてみよう 何cmのびるかな	
②	丸めたり、へびの ようにのばしたり	
③	くだものや動物な ど作ってみよう	
④	かたぬきをしよう	